

下水道新聞

有明水再生センターで学ぶ

発行日
2012年8月16日

発行者
小野 叶夢

毎日使っている水について見つめ直そう！

— 貴重な水を使い、もじすということ —

ぼくたちは毎日一人約250リットルの水を使っている。これはなんと、2リットルのペットボトル約125本にあたる。

洗たくやお風呂、トイレなどで使った水は洗剤や汚れといっしょに下水道管に流れていく。

地球上で利用できる水は、たったの0.01パーセント。なぜそんなに少ないのか不思議に思うが、70パーセントが海水。淡水は残りの25パーセント。

「水はどこからきてどこにいくのか？」

— 地球をめぐる水 —

水が姿形を変え、地球上をめぐることを「水循環」といふ。ぼくたちが使っている水や、下水、処理水はその一部。水はまたもどってくることを意識して、大切にきれいに使うことが大事。



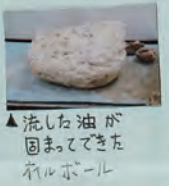
水環境を守るためにぼくたちにできること

雨水が流れなくなってしまう。ここは下水道の入口のひとつ。ゴミを入れない

雨水まですり落ち葉やゴミを入れない

トイレには、トイレットペーパー以外の紙を流さない

お米のとぎ汁は再利用



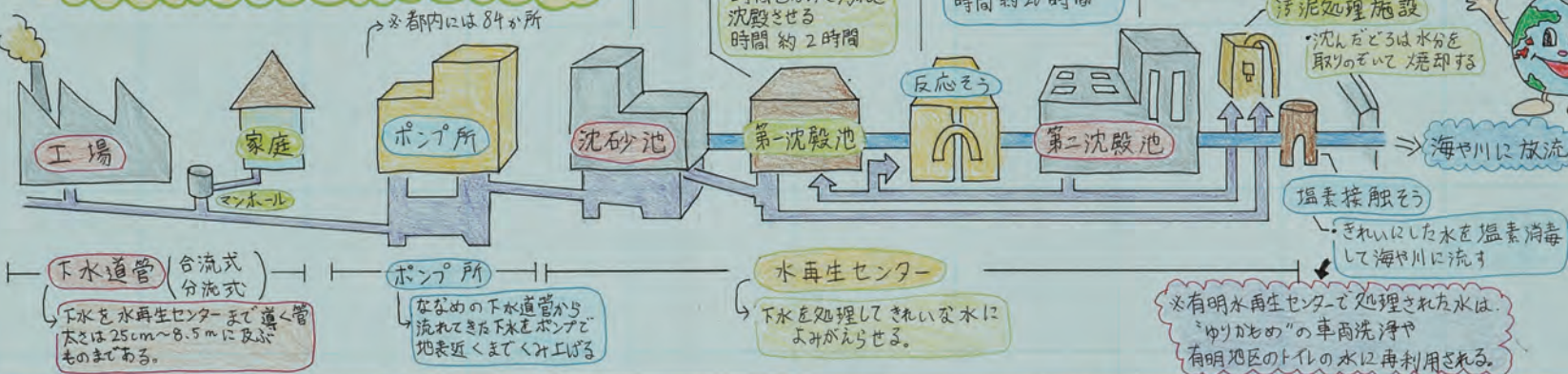
（口所から油や野菜くずを流さない）



その大切な水を使いきれいにしてもどすということも、とても大切なことである。

下水道のしくみにせまる！

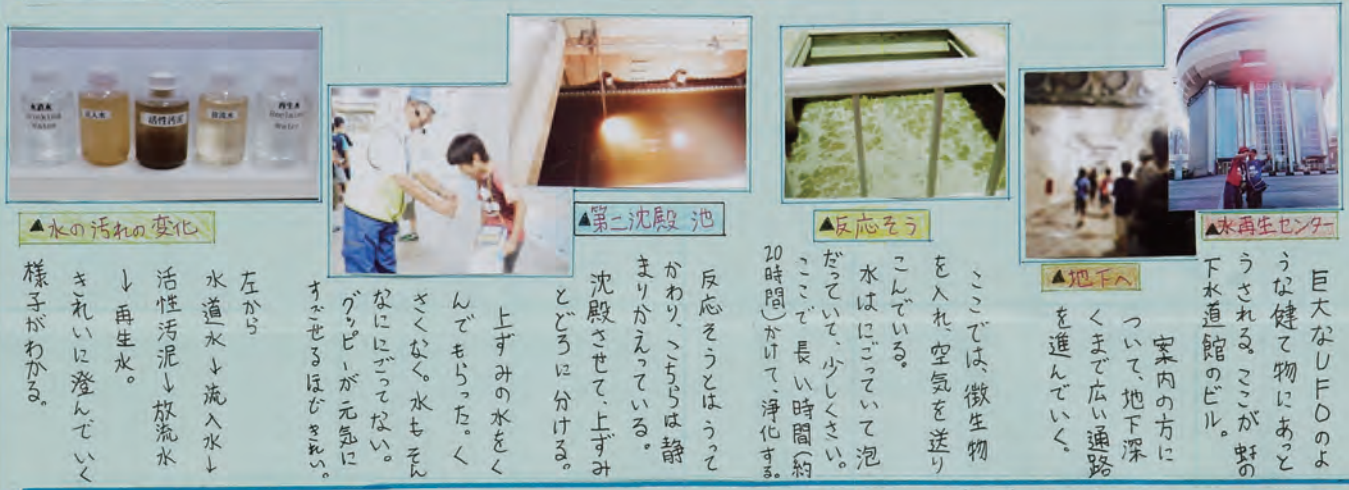
— ぼくたちの使った水や雨水の行方を探る —



せん入!!

有明水再生センター

7月30日(月)、下水道探険隊として参加する。案内してくださる方に教えられながら、下水道処理のしくみがわかっていく。



アスピディスカ
あだ名は「メンガンディスクムシ」
30μm~40μm なるぶと、1mmになる

エプスティリス
むれて集まって、口の部分はせと毛という短い毛が生えている。

アルケラ
あだ名は「まんじゅうアメーバ」
10μm なるぶと、1mmくらになる

アメーバ
自由に形が変わる。なめらかに動く

ボルティケラ
あだ名は「つりがねむし」
頭の下のいものような所がバネのように伸びがちみする。

ペラネマ
べん毛という長いおちの毛を使って動いていく。

汚れた水をきれいにする小さな生き物

— 微生物たちの紹介 —



有明水再生センターの特色のひとつとして、微生物処理法がある。この小さな微生物が水をきれいにするのにかかせない力を発揮する。未知の力をひめた微生物は、救世主なのかもしれない。

有明水再生センターの特色にせまる — かくれた小さな主役たち —